

創生学部フィールドスタディーズの 設計と実践

国立大学法人 新潟大学
人文社会科学系（創生学部担当）
准教授 澤邊 潤
sawabe@ge.niigata-u.ac.jp

目次

- **はじめに**

- ‘インターンシップの捉え直し’の必要性
- 学修設計の要点

- **創生学部「フィールドスタディーズ」**

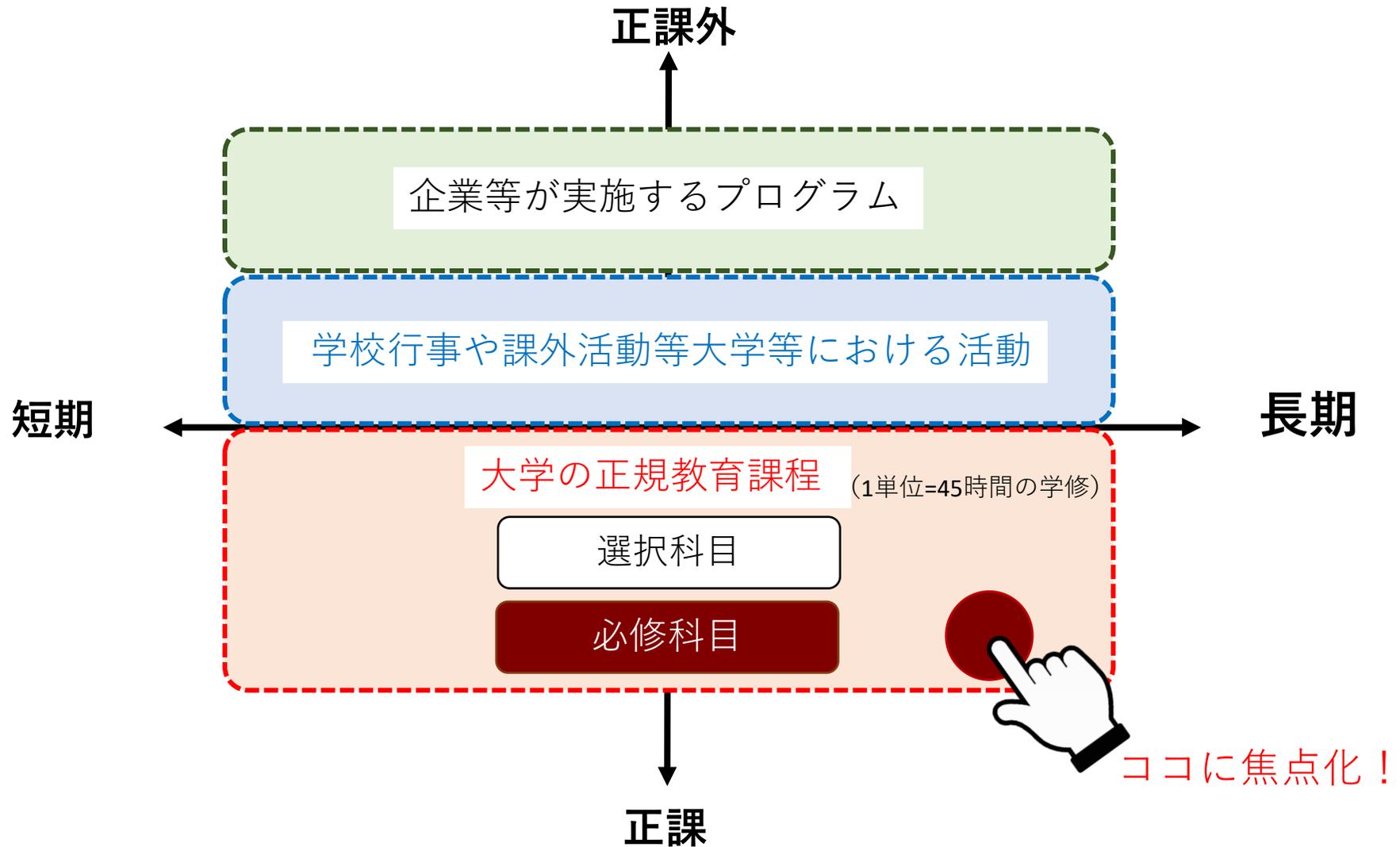
- 人材育成の必要性からみる‘インターンシップ’
- 設計・連携上のよくある課題

- **まとめと展望**

Keyword: 人材育成, 対話, カリキュラム (教育課程), 学生の多様化, 持続可能性

インターンシップの多様化

広義の定義：学生が在学中に自らの専攻，将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと



創生学部カリキュラムと フィールドスタディーズ

POINT

“確かな自分”を創る4年間

4年次

課題解決のための実践力強化
大学院進学に備えた研究能力向上
専門領域を深める学習

3年次

課題を把握し分析する技術の修得
グローバルに活躍するための語学力

2年次

課題を分析するためのデータ処理方法

1年次

学び続ける習慣をつくる
ものごとにチャレンジする姿勢を育てる

フィールドスタディーズ（学外学修） 1年次6月～8月実施，必修6単位（270時間）

【科目のねらい】

- ✓初年次での学修意識の転換と学修動機づけ
- ✓体験的学修を通じた産業・地域構造の理解
- ✓主体的に考えることのできる態度・姿勢

【到達目標】

- ✓フィールドでの経験を踏まえて，事前に設定した目標（個人，グループ）への達成度を把握できる
- ✓フィールドの現状について分析的に理解できる
- ✓フィールド（学外学修先）での活動（もしくは学修成果物）がフィールドの活性化に寄与することができる

「インターンシップ」と呼ばない理由

インターンシップ定義(広義)

「学生が在学中に自らの専攻, 将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」

創生学部の場合, 1年生の6月~8月に実施

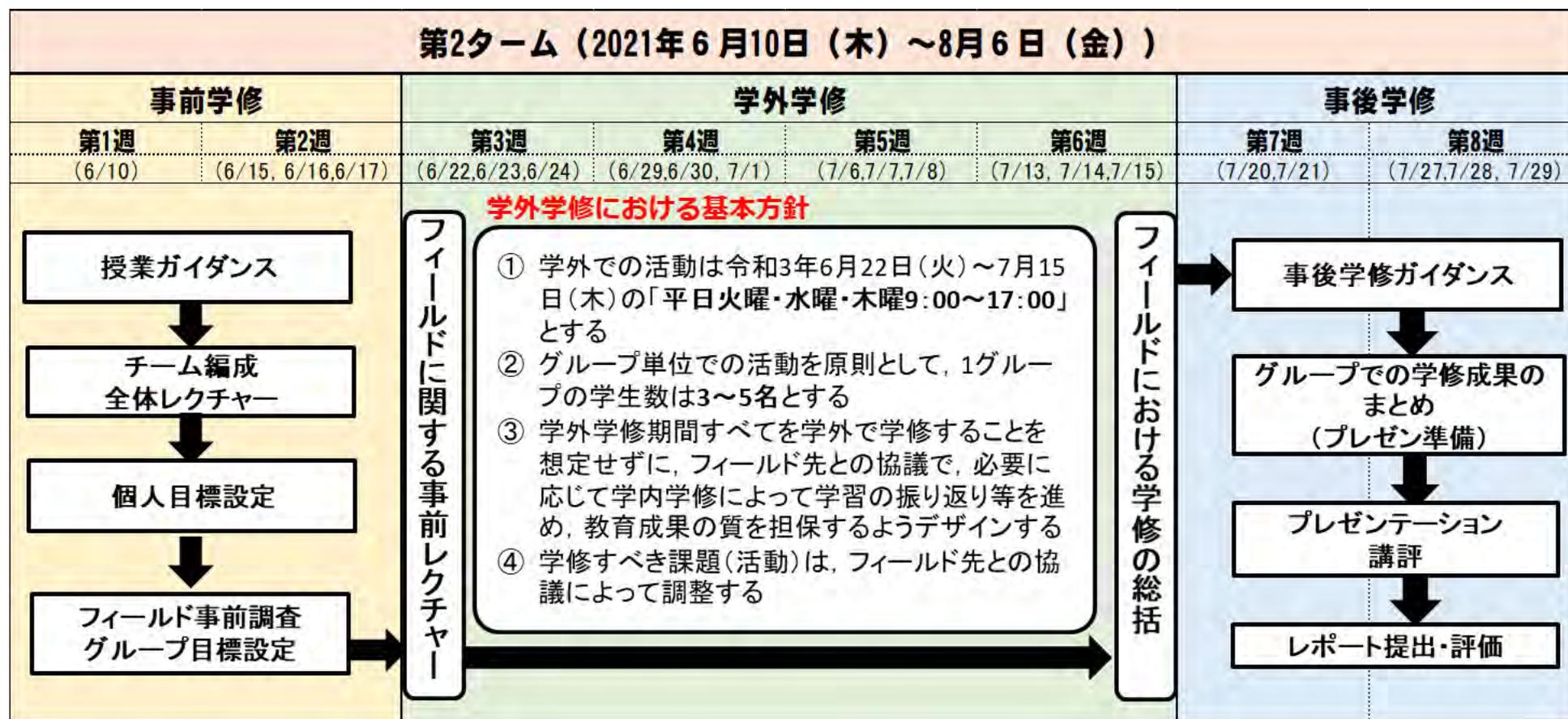
- ✓ 専攻 (専門領域) の学修が十分でない時期
- ✓ 将来のキャリアイメージも十分でない時期

社会的な課題の現状理解や課題分析につながるものの見方に触れ, 学修意識を高める

- ✓ 受入機関と学部の相互理解 (カリキュラム, 取組のねらい)
- ✓ 対話と協働による学修設計 (双方のメリットを模索)

「フィールドスタディーズ」の概要

- ✓ 8週間の学修（事前学修2週，学外学修4週，事後学修2週）
 - 平日火～木曜日をすべて活用
- ✓ 学修テーマに学生がチーム単位で学修
 - 教員6名（1人2～3機関），事務部がサポート（教職協働）



〔参考〕学修テーマ（2021年度）

受入機関名（五十音順）		学修テーマ
一正蒲鉾株式会社		商品や企業の魅力を伝える工場見学プログラムの企画・提案
株式会社エヌ・シー・エス		流通業（量販店）におけるPOSレジ決済の近未来
燕市 商工振興課		商店街のリノベーション「まちの付加価値を向上させるには」
長岡市 中心市街地整備室		中心市街地活性化に向けた施策立案
新潟経済同友会	株式会社当間高原リゾート	地域の魅力を活かした新たな教育旅行スタイルの提案
	株式会社コメリ	ビックデータとリアル店舗を融合した地域貢献事業を考える
	株式会社たかだ	地域零細工務店のデジタル営業化支援
	ツインバード工業株式会社	「あったらいいな」と思う家電製品の企画提案
	福田道路株式会社	建設業のイメージを刷新し、魅力を伝える、広報プロジェクト
新潟県立自然科学館		科学館の来館者層からターゲットを絞った、科学に関する魅力的な展示の制作
新潟県労働金庫		青少年の金融リテラシー向上に向けた取組みの企画立案
新潟市 農林水産部 食と花の推進課		新潟市の農業を「知って・感じて・広げる」ためのアイデア提案
一般社団法人農村振興センターみつけ		「多面的機能支払い」による農村集落を守り続けるアイデアの構築
株式会社モザイクワーク		大学生活におけるキャリアデザインの設計と提案

✓ 学修テーマ設定のポイント

- リアリティのある課題設定
- 過度の負担を強いる活動としない

✓ 学外学修（4週間）設計上のポイント

すべての時間を担当者が対応する必要なし
 （全体の学修活動で学修時間を確保）

例）ある1週間（3日間）の学修

1日目：午前は大学で準備，午後は受入機関での座学

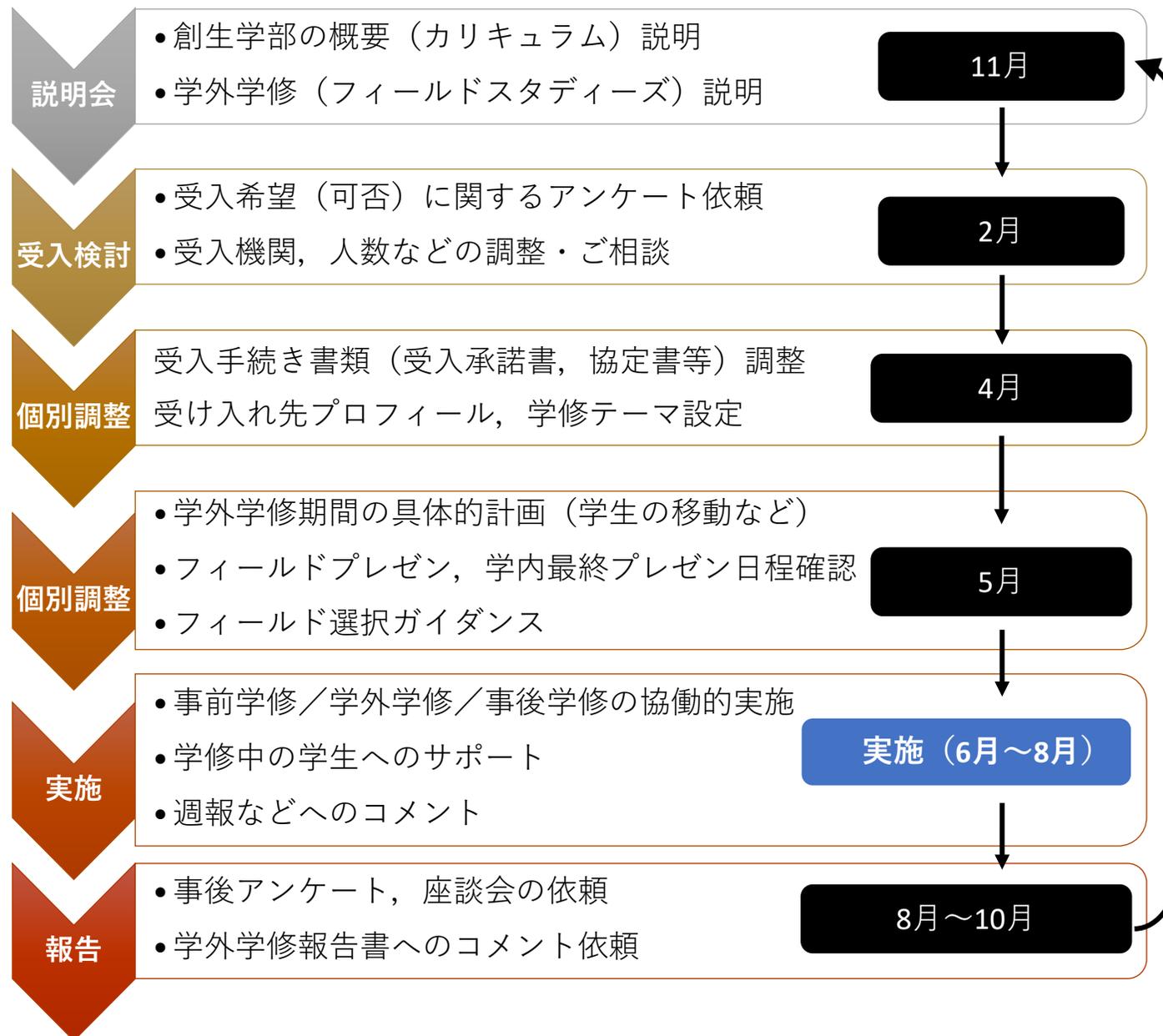
2日目：フィールド調査

大学で振り返り

3日目：大学で今週の学修振り返り

週報作成，次週の目標設定

「受入-実施-まとめ」までの対話サイクル



よくある課題への対応

学生

- 学生の時間確保
(学生は忙しい)
- 学生の属性, 興味
関心の多様化

大学

- 学外学修実施に係る
教育コスト
- 受入機関との連携・
調整コスト
- 特定教職員への負担
の集中

受入機関

- 学生受入のメリット
- 受入担当者の負担増
(コスト, 時間)
- 学生対応の難しさ
(関わりのバランス)

✓ コストのコントロール

必修科目で時間調整, 学生の視野を拡張, 学修コストは大学負担

✓ 負担感のコントロール

取組のオープン化, 無理のない継続的な連携, 人材育成の時間軸

まとめと今後の展望

- ① 「社会（≡企業，自治体，地域，学校等）」との関わりからの‘インターンシップの捉え直し’

「点」から「面」の連携でのニーズ把握

- ② 受入先との協働で設計する取組みの要点

- ✓ 社会の変化への対応
- ✓ 教職員の意識・役割転換（「教える」から「導く」）
- ✓ キャンパスライフ多様化への対応